

(特活) NGO 福岡ネットワーク : NGO 出張相談報告書 (平成 25 年 1 月)

(ア) 団体名・出張サービス企画名・実施日時・場所

団体名 : (特活) NGO 福岡ネットワーク

企画名 : 九州国際協力推進員会議内プログラム「ネットワーク NGO との意見交換会」

実施日時 : 平成 25 年 1 月 11 日 (金) 13 時 30 分～15 時 00 分

場所 : JICA 九州セミナールーム (福岡県北九州市八幡東区平野 2 丁目 2-1)

(イ) 実施内容

九州の国際協力推進員が集まる会議にて、当団体が「国際協力入門講座」にて実施しているワークショップの実施(手法や実施のポイント等の指導を中心とする)及び今後の JICA との連携を主とした意見交換会を実施した。

ワークショップの実施においては、デモンストレーションとしてワークショップを行いながらその解説をするという方法で手法や実施のポイントを伝えた。

意見交換会においては、国際協力の相談業務について双方の受ける相談と対応について情報共有をしながら、今後の連携の可能性についての意見交換を行った。

(ウ) 集客人数

相談件数 : 3 件

参加者数 : 14 人 (九州内国際協力推進員 (沖縄を除く)、JICA 職員)

所感及び効果等

ワークショップ自体の内容としては、国際協力を行う中での活動 4 分野 (緊急援助・開発教育・開発協力・政策提言) を知ってもらい、理解してもらうためのものであった。参加者の中でも国際協力の分野について詳しく聞いたのは初めてという方もおり、NGO への理解は深まったものと感じられた。

意見交換会においては日常的に聞くことのない各々が受けている相談内容について、更にはその対応方法について意見交換を行った。今後の連携の可能性についても意見交換を行う中で、まずは NGO 相談員という存在を 3 年毎に交代する推進員の方々に確実に周知していくことから始まることを改めて感じた。それと共に、国際協力推進員着任の際に、NGO についての学ぶ機会等はあまりなく、国際協力に携わる者として必要となってくる知識の習得については個々人に委ねられていることを知った。その点において今後、当団体が NGO 入門講座のような講座を着任時のオリエンテーションで行う等具体的な連携の可能性も感じられ、今後も定期的にこのような場づくりをしていく必要性を感じる一件であった。



▲ ワークショップを行う相談員



▲ 意見交換会の様子

平成 25 年 2 月 1 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(特定非営利活動法人)
日本国際ボランティアセンター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、以下の通り報告いたします。

記

1. 企画名：(1)「今、注目のラオスとは？」
(2)「国際協力のみち～ラオスという国に出会って～」
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他()】
2. 出張者氏名：平野 将人 (ラオス事業担当)
3. 依頼元/主催等団体名：
 - (1) 特定非営利活動法人 新潟国際ボランティアセンター
 - (2) NPO 法人 新潟県国際援助学生ボランティア
4. 実施日時：
 - (1) 平成 25 年 1 月 19 日 (土) 12 時 30 分～16 時 15 分
 - (2) 平成 25 年 1 月 20 日 (日) 13 時 15 分～16 時 15 分
5. 実施場所：
 - (1) 新潟市民活動支援センター (新潟市中央区西堀前通 6 番町 8 9 4-1)
 - (2) f-café (新潟市中央区米山 1 丁目 1-15)
6. 実施内容報告
 - (1)「今、注目のラオスとは？」(新潟国際ボランティアセンター主催)
 - ① 概要
新潟国際ボランティアセンターは、「地球を知る講座」という事業を展開しており、今年度は MDGs のうち「目標 8 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進」をテーマに連続講座を予定している。うち 1 回でラオスでの開発のあり方について講演を行った。
 - ②参加人数
計 22 名 (学生、社会人、NGO 関係者)
 - ③内容、所感
主催者によると、これまでの同連続講座でもっとも参加者が多かったということだった。青年海外協力隊経験者や NGO 活動に参加している人、国際協力につ

いてほとんど何も知らない人と多様だったが、主催者の工夫もあり、模造紙やポストイットなどを利用して参加者も活発に意見を出し合える場となった。

(2) 20日「国際協力のみち～ラオスという国に出会って～」

①概要

国際理解・協力に関心のある学生・社会人で構成されるサークル「新潟国際援助学生ボランティア」だが、国際協力の世界、あるいはNGOの世界で働くにあたってのキャリア形成について知る機会はあまり多くない。一般企業経験もある平野が、NGO職員として求められる必要な資質、経験等について、またNGOや国際協力との様々な関わり方について、自身の経験を交えて話した。

②参加人数

学生、教員で合計13名

③内容、所感

熱心な学生が多く、上記16時15分の終了後も場所を移して話をした。本当はNGOで働きたい、という迷いを抱えながら就職活動をしている学生も数名いたが、NGOで働く以外の様々な関わり方があることや、出張者自身のように将来的に転身することなど視野に、と様々な可能性を提示した。

対象者として想定されていた新潟県立大学の定期試験中となり、思ったよりも参加者が少なかったことは残念だったが、当該サークルを支援する教員の参加者(2名)が相談員制度に大きな関心を抱くという収穫もあった。

7. 交通費

(1) 交通費概算：20,600円(新幹線往復、宿泊パック料金)

(2) 経路：上越新幹線：上野駅～新潟駅(往復)※事務所～上野駅間は徒歩。また、新潟駅～会場、会場間は含まれない。

(3) 開催場所までの距離：片道 約350km

8. 宿泊： 有・無

1月19日(土)1泊：新潟第一ホテル(上記のパック指定ホテル)

9. 日当

1泊2日2,200円

以上

当日写真

(1) 19日「今、注目のラオスとは？」



(2) 20日「国際協力のみち～ラオスという国に出会って～」



平成 25 年 2 月 6 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
代表理事 竹内よし子 印

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

いつもお世話になっております。

さて、NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたのでご報告申し上げます。

記

1. 企画名:「コムズ de 遊ぼう～コムズ登録団体フェスティバル」
【形態:相談対応サービス・講演／ワークショップ・セミナー・ブース】
出張者氏名:林知美

2. 依頼元／主催等団体名:松山市男女共同参画推進センター(コムズ)

3. 実施日時:平成 25 年 1 月 20 日(日)10 時 00 分～12 時 00 分

4. 実施場所:コムズ 4 階 創作室(愛媛県松山市三番町 6 丁目 4-20)

5. 参加人数:国際交流関係のボランティアに興味のある学生・市民 19 名

6. 実施概要:

「コムズ de 遊ぼう～コムズ登録団体フェスティバル」は、松山市男女共同参画推進センターに登録する団体が日頃の活動や成果を発表し、より市民の方々へ活動を知ってもらうことを目的として開催され、センター全階にて、市民団体によるステージ企画、チャリティーバザーや活動展示、子ども向けの体験ブースなどが実施された。

親子参加も多いことから、国際協力をより身近に感じてもらえるチョコレート为主题とした「絵本の読み聞かせ」と「ワークショップ」を行うことで、児童労働、世界の現状、ODAや国際協力NGOについて知ってもらうことをねらいとした。

学生・市民を対象に、身近な食から世界とのつながりを感じてもらい、当団体の国際協力活動について事例紹介を行うことで、国際協力の必要性や自分に何ができるかについて考えてもらう機会となった。また、ワークショップ後は、フェアトレードに興味を持つ人、ボランティアに関する質問・相談があり、対応した。内容は以下の通りである。

① 主婦:フェアトレードチョコレートやコーヒーといったフェアトレード商品と、カフェについて知りたいという相談があり、当団体がカフェで取り扱っている四国に拠点を置く国際協力NGOのフェアトレード商品や団

体活動について紹介した。

- ② 小学生：読み聞かせで読んでくれた本「チョコレートだいすき」をクラスで友達にも紹介したいので、教えてほしいという相談があり、タイトル、著者等を紹介した。
- ③ 教員：チョコレートのワークショップを学校の部活でもやってみたいので、今日使っていた教材・材料について知りたいという相談があり、フェアトレードのカカオの入手方法やワークショップに使った資料・データの入手方法を紹介した。



読み聞かせの様子



ワークショップの様子

以上

JICA 横浜 開発教育指導者セミナー NGO 相談員ブース出展 出張サービス報告書

実施団体：開発教育協会／DEAR

日時：2013年1月12日（土）9：00～18：00

場所：JICA 横浜（横浜市中区新港 2-3-1）

事業名：JICA 横浜 開発教育指導者セミナー

主催団体：JICA 横浜

実施内容：相談対応（ブース出展）

セミナーには、教員を中心に自治体や市民団体関係者、学生等 60 名の参加があった。開発教育や国際協力に関する相談を約 10 件受けた。展示ブースには、開発教育や国際理解教育に関する教材や資料を自由に見てもらうように配置し、具体的な教材や資料を探している教員には、とても評判が良かった。相談内容は、学校で行なう国際理解教育や ESD、開発教育のプログラムについてや、生徒が参加できる国際協力活動や NGO の活動についての相談が多かった。プログラムの中でも国際協力や開発教育について熱心に話されていたので、より一層、ブースにも関心を持ってくれたようだ。

所感および効果：

神奈川での開催であったが、関東全般から積極的な参加者が集まり、熱心に議論が行われていた。全体会が開催される会場の後ろにブースを出展させてもらえたので、参加者の目には止まりやすく、みなさんに教材や資料を見てもらうことが出来た。

参加者の中には、開発教育や国際協力を実際に行っている方々も多く、自分で教材を作るためのコツや、学生のインターンを受け入れている NGO についてなどの質問もあった。その場で答えられないことは、後ほどメールをするなどして、丁寧に対応することが出来た。また、全国の NGO 相談員の存在にも関心を持ってもらうことが出来た。JICA 主催の研修であるが、全国で行われているので、他の地域の相談員も出展ブースを出せるとよいとも思った。



第4回ユネスコスクール全国大会における NGO 相談員ブース出展 出張サービス報告書

実施団体：開発教育協会／DEAR

日時：2013年1月26日（土）9：00～18：00

場所：奈良教育大学（奈良市高畑町）

事業名：第4回ユネスコスクール全国大会

主催団体：文部科学省 日本ユネスコ国内委員会、

実施内容：相談対応（ブース出展）

大会自体には全国各地から教員、学校関係者や学生などの約300名の参加者があり、持続可能な開発のための教育／ESDや国際理解教育などに関心のある参加者から約20件の相談を受けた。展示ブースには、ユネスコスクールですすめられるESD活動や、学校でできる国際協力・国際理解教育を具体的に示すパネルを展示したことで、参加者の関心を引くことが出来た。相談内容は、ESDや環境教育、国際理解教育に関する質問、教材や素材、プログラムに対する相談、生徒が参加できる国際協力活動についての質問などが多かった。時間を見つけて関連のあるプログラムに参加して、NGO相談員の説明も行った。

所感および効果：

奈良での開催であったが、関西地域を中心に全国各地から熱心な教員が集まり、積極的に情報交換をしていた。ユネスコスクールに登録していたり、ユネスコクラブがある学校はもちろん、先駆的な活動を行っている学校や大学の教員、関係者が集まる機会に、昨年同様、NGO相談員ブースを出展できたのは、良かったと思う。

文部科学省もユネスコスクール登録を積極的に呼び掛けていることや、来年は日本でもESDの国際フォーラムが開催されること、学校でも「持続可能な社会の実現」が強調されていることから、今後益々、学校で、ESDや国際理解教育、国際協力への取り組みが進めやすくなるのでは、と期待している。

昨年同様、参加者が自由にブースを回る時間が限られていたので、全員がブースを訪れたわけではないが、ブースにいらした方からは、ESDや国際協力に関する学習の相談を受けたり、全国にいるNGO相談員の存在にも関心を持っていただくことが出来た。



平成 25 年 2 月 6 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
代表理事 竹内よし子 印

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

いつもお世話になっております。

さて、NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたのでご報告申し上げます。

記

1. 企画名:「地球人まつり in まつやま・えひめ 2013」
【形態:相談対応サービス・講演・セミナー・NGO 相談員デスク】
出張者氏名:林知美
2. 依頼元／主催等団体名:財団法人松山国際交流協会、公益財団法人愛媛県国際交流協会
3. 実施日時:平成 25 年 1 月 13 日(日)13 時 00 分～17 時 00 分
4. 実施場所:松山市総合コミュニティセンター 企画展示ホール 2 階(松山市湊町 7 丁目 5 番地)
5. 参加人数:国際交流・協力関係のボランティアに興味のある市民・企業・NPO 団体約 1,300 人
6. 実施概要:

「地球人まつり in まつやま・えひめ 2013」は、今年度から財団法人松山国際交流協会と公益財団法人愛媛県国際交流協会が、愛媛県在住の外国人と市民の交流の場を提供し、市民の国際交流に対する意識や理解を深めるとともに、国際協力・交流団体の活動を PR することなどを目的として、初めて共催したものである。

当団体は、四国の国際協力 NGO や ODA に関する資料展示による情報提供と NGO 相談員コーナーを設置し、来場者の質問・相談に対応した。来場者は「国際」に興味を持っている市民が多く、国際協力・交流活動、ネットワーク・中間支援など、多様な相談に対し、当団体の経験を活かした個別対応を行うと同時に、本会に出展していた他団体とも連携し、それぞれ相談者・来場者のニーズに合わせた対応を心掛けた。以下は、当日行った相談対応の内容である。

 - ① 会社員:国際協力ボランティアに興味はあり、どのようなボランティアが国内でできるのか教えてほしいとの相談があり、近日出店するイベントやカフェで企画しているイベントなどを紹介し、参加することとなった。
 - ② 大学生:国際協力 NGO について調べており、どのような活動をしているのか教えてほしいという相談があり、当団体の活動、四国内 NGO の活動について紹介した。また、近くに中国等での支援活

動を行っている団体が出店していたので紹介した。

- ③ 学生団体:カフェめぐりなどをして地域とのつながりをつくるサークルでフェアトレードや国際協力についての勉強会をしたいと考えているので、助言が欲しいとの相談だったため、NGO相談員出張サービスの活用や当団体のカフェで2月開催企画している「ODA勉強会」などを紹介した。
- ④ ALT:冊子やメールで活発に活動している様子は拝見しているが具体的にどのような活動をしているのか知りたいとの相談があり、当団体の具体的な活動や講師派遣を通じた国際理解教育活動などについて詳細を紹介した。
- ⑤ 研修生:ベトナム支援や研修生のサポートをしている団体があれば教えてほしいと相談があったため、四国内で活動しているNGOや国際交流協会等の団体を紹介した。



活動紹介、相談対応の様子

以上

平成 25 年 2 月 7 日

外務省国際協力局
民間援助連携室 殿

特定非営利活動法人沖縄NGOセンター

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容を報告させていただきます。

記

1. 依頼元／主催等団体名：特定非営利活動沖縄 NGO センター
2. 実施日時：平成 25 年 1 月 28 日 10 時 05 分～11 時 55 分
3. 実施場所：沖縄県立八重山商工高等学校（石垣市字登野城）
4. 実施内容：商業科観光コースの 1～3 年生を対象に国際理解ワークショップを行い、国際社会とのつながりを考え、視野を広げるとともに石垣島の魅力を再発見できる機会につなげる。また、NGO の活動や国際協力について知らせ、進路選択や社会貢献について考える機会にする。
5. 参加者人数：47 人
6. 所感及び効果：国際理解教育の一環として、「もしアジアが 100 人の村だったら」を通してアジアの国々の様子・状況を体験、理解することを実施した。アイスブレイキングで、アジアのイメージをだしてもらったら、エンターテインメントの部分や国の名前や漠然としたイメージがでてきた。ワークを通して、人々の割合や言語、識字率や富の分配の状況を知り、アジアの多様性、貧富の差が印象に残ったようだ。感想として、「自分たちの生活が恵まれていることを実感した」「勉強ができることを感謝して今は勉強を頑張りたい」「人の役にたつことをしたい」「世界に目をむけながら自分ができることをやっていきたい」という感想が聞かれた。アジアの国に想いをはせながら、自分の足元を見つめる機会と成り得るよう実施した。また、修学旅行で台湾へ渡航する予定もあり、学校での国際理解教育、渡航前事前学習へもつながるよう学校側担当教諭と連携の上進めたので、その後の継続的、発展的な学びと効果を期待したい。

